

連盟ニュース

NO. 92

4 - 1 9 6 0

イタリア美術家から 絵画と版画作品寄贈

美術家会館建設に協力する各国美術家の友情の贈りものとして、さきにフランス、チリの両国から版画作品の寄贈を受けたが、このたびはイタリアのIAPA国内委員会から同日本委員会宛に六人の作家各一点づつ、版画四点、絵画二点づつ六人の作品が贈られた。作家は左の諸氏である。

ヴィンツェンツォ・チアルド、エンリコ・パウルッチ、マリオ・ラディーチニ、トテイ・シヤローヤ、エミリオ・ヴエドローヴァ、ジオヴァンニ・

コンソラチオーネ

これらの作品はイタリア大使を通じて送られ、四月五日午前十時半同大使館で贈呈式が行なわれた。当日は日本委員会代表として宮本委員長、益田事務局長、および和田連盟事務局長が

作品贈呈式

向つて左からジャッキーノ博士、宮本委員長、イタリア大使閣下、益田事務局長、和田事務局長



招かれ、イタリア文化会館長ジャッキーノ博士、日伊協会専務理事、朝日新聞衣奈企画部長、竹間氏ら列席のもとに、コッピノー大使から宮本氏に作品が渡され、大使のメッセージ、宮本委員長の感謝のことばでなごやかな式を終り、作品を鑑賞しつつしばし談話の時をすごした。

第28回理事会

兼建築委員会

三月四日午後五時から建築委員会を、ひきつづき六時から理事会を建築委員会合同で開いた。

〔出席〕阿部、新井、大河内、高野、清水、田中、平塚、本郷、益田、宮本、望月、山本（豊）、山本（稚）各理事、大久保監事、柳原委員、事務局和田、木下、倉田、西原

理事会に先だつて開いた建築委員会では、銀座八光の池田氏の出席を願い、設計案に関して会社側で詳細検討した諸問題につき説明をきいた。

理事長は宮本理事長を議長として左の議事を行なった。

◇報告事項

1 新任期による理事会成立につき、委員の互選投票の経過および総会の承認により正式決定されたことを事務局長報告。

2 総会の経過、および予定の議事その他をどことこおりなく終了したと。

伊原宇三郎氏に フランス勲章贈与

伊原宇三郎氏（理事、元委員長）はこのほどフランス政府から同国の美術文芸勲章（オフィシエ・ド・ロルドル・デ・ザール・エ・ド・レトル）を贈られた。IAPA創立以来日仏文化関係の領域における功績に対して、ということである。

ウォッシュバーン氏来日

カーネギー美術館長ウォッシュバーン氏は講演の目的で四月四日来日、プログラムの一つとして、アメリカ文化センターと連盟の共催により、四月二十二日ブリヂストンホールで講演会を開く。同氏はまた三年前来訪の時と同様、日本美術の現状をくわしくみて、来年のカーネギー国際展招待の候補作家を選ぶ予定である。五月十日まで滞在する。

3 文部省著作権制度調査会が開かれたことおよびそのおもな議事について（前号参照）。

4 番外として、著作権協議会のあり方につき経過報告ののち意見を交換した結果、昨年同会総会以後の経過と、連盟の態度とをニュースに発表すること

を決定した。

◇協議事項

1 入会申込者承認の件
四名の入会を承認した。

2 理事長および常任理事改選の件
理事長については宮本氏留任

の希望が出たが、宮本氏は辞退し、この位置は同一人が継続するのでなく気軽に交代できる例とすることが望ましいとその理由を述べ、一同了承して同氏以外の人選につき協議した結果、益田理事を推薦することに一致し、益田氏これを受諾した。

番外展覧会出品物運賃の件

都美術館で開かれる公募展出品物の鉄道運賃につき、規定上取扱いに種々困難な点があるので、ホシヤ運送店の鈴木氏を招いて実情の説明をきき、問題の所在を明らかにした。連盟が何らかの方策を講ずるかどうかは追って研究することとした。

3 会館設計に関する件

経過報告ののち、前記池田氏から提出された設計に関する検討の結果、および資料につき協議をかさね、基本的な案の変更を必要とすることに一致した。

IAPA日本委員会 第24回会議

九月の総会準備のため議案の検討等をおもな議題として、三月十二日午後五時半からレストラン・とうきょうで開いた。

〔出席〕阿部、伊原、加山、北岡、高野、清水、平塚、益田宮本、向井（良）各委員、ユネスコ国内委員会安井氏、事務局和田、木下、倉田、野間宮本委員長を議長として左の

◇報告事項

1 伊原前委員長にフランス政府から勲章を贈られたこと。

2 日本委員会規約改正は連盟の総会で正式に決定したこと。

3 美術家の税金に関する本部からの質問書につき、大蔵省と相談の上回答を作成し、事務局長の名をもって送ったこと、およびその内容について。

4 イタリア国内委員会事務局長G・コンソラチオーネ氏からの来信で、同氏を含む六名の美術家の絵画および版画作品六点を会館建設応援のため、日本委員会宛寄贈の申し入れがあったこと。

5 その他、昨年来訪したチリの画家オタ氏からの来信、イギリス画家チャーチル氏との懇談会の経過、ユーゴスラヴ国内委員会からの年賀状等について報告した。

◇協議事項

1 グッゲンハイム賞国内審査員再選出の件
かねて選出した阿部展也氏は国際審査員に任命され国内審査員を辞退したので、改選のことを協議した結果、益田義信氏を選出することに決定した。

2 第三回総会議案に関する件
本年九月ウィーンで開かれるIAPA第三回総会の議事日程案を検討し、各分科委員会で見上げられる議題のうち、必要な項目につき研究また協議した。大要左のとおり（括弧内は委員会の別）

a 画家・彫刻家と建築家の協力に関する協定案（一委）

IAPAとUIA（国際建築家連合）の各事務総長の間で準備した原案を執行委員が検討し、最終的準備ができています。未だ正式に国内委員会に通過されていないので内容の研究は後日に延すこととした。

b 美術家の所得税に関する各国の回答結果の報告および事態改善のための提案採択（一委）

日本委員会はすでに回答を送ったが、事態改善につき必要であれば提案を行なうこととした。

c 次回総会開催地の選定（二委）

一九六三年の第四回総会開催地については東京としたい希望が本部にあり、その可否について意見を交換した。可否というよりは可能かどうかの問題で、資金と準備態勢に見通しがつけば実現に異論はないが現在何びとも確信をもちにくい問題なので、開催賛成の積極的意見と困難と考える慎重意見とがあつて一致せず、結論を出さず今後

病氣見舞

内規により左の五氏に見舞金を贈呈しました。
 山中 春雄氏 佐藤 一章氏
 谷口 董美氏 浜田 信氏
 猪瀬 踏花氏

弔 慰

蛭子屋里徑氏 三月二十六日
 病氣のため永眠 謹んで弔意を表し、弔慰金を贈呈しました。

—1959— 年末連盟展決算報告

収入	摘要	支出
6,378,130	一般作品売上金	
597,600	会場制作及雑収入	
17,320	寄附金	
	材料費	297,709
	額通交	149,730
	消耗品	53,103
	運搬費	25,706
	印刷費	12,506
	人件費	34,000
	謝礼金	39,481
	接待費	50,300
	接合費	126,579
	額縁代等実費返却金	112,184
	松坂屋及び税金	169,890
	雑費	876,957
	益	50,305
	利	5,004,600
6,993,050		6,993,050

◆年末展寄贈作品追加

第十一回年末展ご寄贈作品の報告（本紙90号参照）から左記作品がもれましたので、お詫び少々追加させて頂きます。

吉岡堅二氏作 中型扇面一点

3 東西美術家会議参加準備の件

なお研究することとした。いずれにしても代表出發までには態度をきめなければならぬ重要な問題である。

d テレビ著作権、追及権および人格権に関する報告の採択（二委）

すでにニュース83号に発表されたもので、とくに問題とせず。

e 絵画・彫刻・版画の国際競争統一のためのルール採択（二委）

昨年国際法律家委員会が作った草案が準備されているが、長文であるためここで検討せず、各委員がもちかえって研究する

こととした。

f 彫刻の鑄造および版画原作品の合法的数に関する決議の採択（二委）

昨年特別委員会が準備した草案につき検討した。なお版画原作と複製との区別に関する問題は、前回総会で日本委員会から意見を出したが提案国ノールウェイが出席せず、立ち消えとなつたのでもう一度日本から提案すべきではないかとの意見があり、版画部で意見をまとめてもらうこととした。

g 国内委員会の報告（三委）
 日本委員会として会館計画の経過、各国から版画寄贈の件などを主とし簡潔な報告を準備することとした。

その他アジア地域センターの問題につき意見交換、参考としてチリで開かれた南米地域シンポジウムの報告を検討した。

資料の作成準備を急ぐ必要があるので、前回選出した準備委員による小委員会を近く開くこととした。

4 総会代表出席に関する件
 代表の任務分担、通訳等の問題につき協議したが、通訳については心当りの方面に問合せること、また代表の打合せは近く行うことにした。

第29回理事会
兼建築委員会

前回理事会兼建築委員会で設けられた研究することになったので、この問題をおもな議題とし、三月二十四日午後五時半からレストラン・とうきょうで開いた。

第29回理事会

向つて左から阿部、山本(雅)、大河内、宮本、本郷、高野、益田、和田大沢各氏



寄贈図書・目録等

左記の雑誌、カタログをご寄贈いただきました。ご報告とともに感謝の意を表します。

雑誌

（誌名） （寄贈者）

「国際文化」No.70

「三彩」二、三、四月号

「美術手帖」三、四、五月号

「現代美術の冒険」同増刊号

「みづゑ」三、四月号

「芸術新潮」三、四月号

「色鳥」十二月号

「MUSEUM」二、三月号

以上発行者寄贈

カタログ・写真

日本洋画商協同組合主催「一九六〇年展目録」(同組合発行)

「第11回選抜秀作美術展目録」(朝日新聞社発行)

「国際具象派美術展目録」(朝日新聞社発行)

「日本画の新世界」(朝日新聞社発行)

（国立近代美術館発行）

「国立近代美術館年報」(同右)

「日本版画展目録」(日本版画協会発行)

「光風会展目録」

同展出品作品写真 一四枚

「創元展目録」

同展出品作品写真 六枚

「モダンアート十周年記念図録」

「同展出品目録」

「同展出品写真」一三枚

以上主催者寄贈

本、山本各理事及び委員。事務局和田、木下、倉田、西原

益田理事長を議長として左の

議事を行なった。

〔出席〕阿部、大河内、大沢、高野、田中、本郷、益田、宮

画廊ひろし

都電新橋停留所前(銀座通り)
 (新橋 玉木屋隣)
 TEL (571) 1953

仏国ルフラン・絵之具・画材料
 仏国カンソン・木炭紙・画用紙
 直輸入
 大阪・心齋橋

河内洋画材料店

電話大阪(27)2148
 振替大阪47938

美交社画廊

国立近代美術館前
 東京都中央区京橋二 電(56)1258
 (都電・バス停・地下鉄口)

大阪・東区南久太郎四(御堂筋)電(26)3624
 3625
 6984
 名古屋・中区栄町四(小通)安藤ビル電(9)4430

◇報告事項

1 会館設計案に関しては前回の決定にもとずき、会社側とも相談のうえ方針を新たにすることとし、坂倉氏にその旨を伝えたこと。

2 第三回建設展の会場および会期の件につき高島屋と相談したこと。

3 ビエンナーレ代表旅費の問題で振興会米沢氏の配慮を煩わ

したこと。

4 グッゲンハイム賞国内審査員はIAPA日本委員会と再選の結果益田氏に決定したこと。

5 その他、ウォッシュンバーン氏来日予定、チリ版画を日本版画協会展特別陳列に貸したこと

およびユーゴスラヴ版画展を近くIAPA日本委員会主催で開催すること等。

◇協議事項

望月春江、伊原宇三郎(主任) 大久保泰、益田義信、本郷新

購買部委員(七名) 新井勝利、栗原信、田崎広助

松本弘二、向井良吉、村田勝四郎、山本稚彦

会館建設委員会

委員長 宮本三郎

委員 (一〇九名)

実行委員 (七四名、委員中現在の連盟委員その他)

企画委員 (二〇名、実行委員中理事会メンバー)

建築委員 (一三名) 阿部展也、大沢昌助、田中忠雄

雄、建島覚造、本郷新、益田義信、三雲祥之助、宮本三郎

村田勝四郎、柳原義達、山内壮夫、大河内信敬、菊池一雄

募金計画委員 (一五名) 大河内信敬、沢田政広、清水

多嘉示、田中忠雄、田村一男

高岡徳太郎、西沢笛敏、益田義信、宮田重雄、宮本三郎、

向井良吉、望月春江、安田周三郎、山本豊市、山本稚彦

連絡委員 (四名) 大河内信敬、益田義信、宮本

三郎、和田新

1 入会申込者承認の件

三名の申込を承認した。

2 顧問弁護士候補の件

推薦された候補につき意見交換のうえ研究することとした。

3 会館設計の件

設計問題を一応白紙に戻して至急進捗させるための方法を協議した。美術家の協力を前提とする設計案の作成につき、設計者を選ぶ範囲、方法等につき種々の意見が出て討議したが、なお適当と思われる専門家に相談して意見をきくこととした。

4 第三回建設展計画の件

懸案の第三回建設展は会場の予定がだったので本年開催のこ

ととしその計画を協議した。今回は、各部委員によるさらに一点づつの出品のほか、前二回の建設展に種々の事情で出品されなかつた作家諸氏に依頼して寄贈を受け、日本画、洋画、版画彫刻四部を含むものとする。作品の切を七月末日とし、至急依頼を發することとし、そのための作家名簿の準備等につき相談した。

特約旅館

左の一館を新たに特約しました。会員証ご持参の上ご家族とともにご利用下さい。

◇菅平マリヤ荘(牛木聖児氏紹介)。館主川上今朝太郎氏。

長野県小県郡真田町菅平。(連絡所) 長野市南石堂町九五、菅平マリヤ荘連絡所、電話、

長野2局三六五五。

信越線長野駅から長野電鉄にて須坂駅下車、菅平行バス、マリヤ荘停留所下車(バスは一日五本位)

信越線須坂駅から菅平行バスにて須坂駅下車、菅平行バス、マリヤ荘停留所下車(バスは一日五本位)

分野における古今の顕著な作例として、古美術品中から絵画、彫刻、建築あわせて五十余点の候補を選択、これらはスライドにより紹介することとし、書道については東洋書道史を概観するスライドの外に現代書家十氏の作品を陳列、又版画についても数氏の原作品と木版画材料一組を用意することとした。なお

既成の写真等を集めるほか、新たに撮影する必要があるため、その計画につき相談した。

その計画につき相談した。

その計画につき相談した。

その計画につき相談した。

その計画につき相談した。

その計画につき相談した。

その計画につき相談した。

その計画につき相談した。

その計画につき相談した。

その計画につき相談した。

その計画につき相談した。

その計画につき相談した。

三月三十一日午後五時半から東京駅地下レストラン・とうきょうで開催した。 [出席] 阿部、伊原、加山、菊池、栗原、高野、三田、田中 益田、宮本各委員(委任状二十一名) 事務局和田、木下、倉田、西原

中央画廊
・最高の場所・
・銀座一の会場・
・新人を歓迎・
中央区銀座6-2(菊水二階)
松坂屋向(銀座通)小松ストア隣
電話銀座(571)1480番

holbein
ホルベイン
油絵具

文房堂製の油絵具
文房堂画廊
皆様の御利用を
お待ちしております
文房堂
東京・神田・スルガ台下

ることとした。

3 本年度事業遂行と各種小委員会の件

連盟の既定事業のための常設小委員会と、会館建設関係小委員会の人選につき協議し、別記のとおり決定した。

4 会館設計に関する件

設計案を再出発させるため理事会および建築委員会で研究した原案を検討し、大要左の方法によって至急進捗をはかること

を決定した。

a 設計案作成はできるだけ少数の代表者に委任する方針とし、建築委員の互選で三人のアートディレクターを選出、これに基本構想の全権を委任する。

b デイレクターは最適任と認める個人美術家(画家または彫刻家)を選定し、またこの美術家と協力するに適切な建築家を選定する。
c 企画委員会と建築委員会の

承認を得た上、設計案の作成はこの美術家と建築家とに一任する。

5 第三回建設展計画の件

理事会で協議した案にもとづき準備を進めることとした。
6 その他
会員病氣見舞をできるだけ広範囲に及ぼすこと、および会員のための催しに関する二、三の案について協議した。

集 録

正会員入会者

- 一七五五 西村 赫(洋)
- 一七五六 石森美津子(洋)
- 一七五七 白井 保春(彫)
- 一七五八 溝辺 有巢(日)
- 一七五九 浅野 弥衛(洋)
- 一七六〇 吉留 要(洋)
- 一七六一 新谷 秀雄(彫)
- 一七六二 小河原俊彦(洋)
- 一七六三 久保 晃(洋)
- 一七六四 下高原伸輝(洋)
- 一七六五 鴨居 玲(洋)
- 一七六六 加藤 秀夫(洋)
- 一七六七 佐々木友幸(洋)
- 一七六八 宮脇 愛子(洋)

会費納入について

お願い

本年度会費お納め願うようかねて請求をさしあげておきました。まだお払込みのない方があります。整理の都合上なるべく早くお納め下さるようお願いいたします。
会費一年分千二百円ですが、ご都合により半年分ずつお納め下さってもけっこうです。

なお、前年度分またはそれ以前の会費未納の方は、できるだけ早くご精算下さい。未納分が多額に上るばあいは、分割ご納入でもけっこうですが、そのむねあらかじめご連絡下さい。

◇竹沢 基氏(洋) 去る十一月約一ケ年の予定で渡仏。

◇堀田 清治氏(洋) 欧州各地巡歴のため四月十四日渡仏。約一ケ年余滞在の予定。

◇豊福 知徳氏(彫) ヴェニスビエンナーレ出品作家に選ばれた同氏は、来る九月に出発、イタリーをはじめ欧米各地を約半年の予定で歴遊する。

住所訂正
執行 正夫 市川市新田町四ノ一四一二 東洋荘

改名
大塚 衛司氏(洋) は結婚のため富田衛司と改姓。
北村 巖氏(洋) は北村嘉康と改名。

西沢 富義氏(洋) は西沢富吉と改名。

電話新設、変更

- 安宅 虎雄
- 安達真太郎
- 阿井 正典
- 青柳 暢夫
- 飯島 庸行
- 岩崎 鐸
- 小関 通
- 小野寺玉峰
- 北岡 文雄
- 清川 泰次
- 河野 通紀
- 田辺三重松
- 高田 力蔵
- 高橋 米吉
- 丹下富士雄
- 中条 頭
- 辻 利平
- 内藤 秀因
- 中川 為延
- 藤井 二郎
- 星野 正三
- 真垣 武勝
- 松下 明治
- 丸山 石根
- 森田 沙伊
- 柳原 義達
- 渡辺祐一郎
- 山田始子(準)
- 石葉亭(特約旅館) (箱根2) 二四六一〜三
- 住所変更
上野 卓
- 上野 菊
- 河合 敏雄
- 栗田 貞子
- 小松 義雄
- 神山 恒
- 島田 訥郎
- 白木 正一
- 曾山 節雄
- 立花 重雄
- 土井 栄
- 西尾 善積
- 桂 ユキ子

後 記

▼日本の美術家会館の計画は世界の注目を浴びており、フランス、チリについて今度イタリヤから作品寄贈の応援を受けました。▼会館は美術家と建築家との協力の新しい例をつくるために努力中で、近くご報告できる段階に達すると思えます。別項委員会記事ご参照下さい。(和)

◎昭和三十五年四月十日発行
編集兼 和田 新
発行人 和 田 新
発行所 日本美術家連盟
東京都新宿区四谷一ノ一八
電話 五〇五七八
振替東京四一、四一一